

○話題提供

堀川再生への諸団体の取り組み 秀島栄三（名古屋工業大学）

- (1)かわづくりに取り組む様々な主体
- (2)社会基盤整備への参加と戦略性
- (3)いくつかの提言を並べてみて

○問い

- (1)何が片づき，何がまだか（何をすべきか？も）
- (2)まだのことをどうしていくか（する人は誰か？も）

○参加者から出された回答（出来る限り発言のまま・参加者毎に空行を入れていきます）

・片づいたものは，ハード面では納屋橋から錦橋のリバーウォーク，棧橋は舟運の活用の上でたくさんほしい．水質浄化はまだまだだが少しずつ前進．ソフト面では市民の活動，1000人調査隊，フラワーフェスティバル，継続性がある．

・まだのものは，護岸が危険，まちづくりの点では堀川を意識したものが感じられない．マイタウンマイリバー．堀川連合のあり方，様々な団体の協働・連盟を実際に見える形にはなっていない．

・補足：ウォーターマジック懇談会の座長は中部地方整備局．2005年万博をターゲットに堀川に関する構想をまとめたもの．新しくアイデアを考えたわけではなく，メンバーの中でやろうとしている内容をまとめたもの．

・問題意識を持った人が増えた！行動も多い．問題は，堀川をどういう姿にしたいのかというイメージが異なっており一致していない．にぎわい？きれいな水？親水性？舟運？治水？それぞれ描く姿が異なっている．やろうと思ったら一つでも具体的なものを持って，それに対して取り組んでいく必要がある．

1つは人が集える場づくり．だれが，どこで？事務局的な人がいないのが問題．

2つは個々の目的を融合させる．治水を考えながらも親水性を考えたりするが，行政的にはありふれたものになってしまう．市民の意見を聞こうと思ってもいろいろあってまとめられない．→避けてしまう．意見を一つにまとめる場づくりが必要．

・官：調整をとって動いている．一方で，目先のプロジェクトではとれているが，長期的には×，戦略性や強い意識が感じられない．

・民：堀川に関心を持つ人は増えている．しかし，なにをすべきか，なにができるのかがわからず，意識が反映できるようになっていない．2極分化．

・産：CSRで前向きな企業が増えている．個別の企業にアプローチもあるが，業界団体に対するアプローチも必要．資金を効率的に集める方法を考える必要がある．

・学：大学間の連携が感じられない．

・全体的に：10年前と比べれば情報共有は進んでいる．が，ビジョンの構築が進んでいないので共有されるものが何なのか？情報よりも想いの共有が必要．烏合の衆のままでは限界がある．

- ・片づいたもの：護岸整備・合流改善・水質改善は進行中。民は沿川の再開発，活性化方策が動き出しつつある。観光舟運が運行されている。1000人調査隊を中心とする情報収集が整備されている。場づくりとしての各種イベント，一部産官学民が主体に。協力もできている。官・学は，堀川の水質状況の把握は進んでいる。川としての特性の把握は進んでいる。歴史・堀川に関する情報発信は，民産官学が個別に行ってきた。

- ・片づいていないもの：戦略化情報発信。方法？共通認識としてのゴール・ビジョンが設定できていない。治水・環境整備が進んでいるが最終形が見えていない。→堀川と沿川のまちづくりに関する青写真ができていない。財政的な裏付けがない。

- ・共有できるビジョン・ゴールを持つことが大切。そのための組織作り，堀川連合として模索中。それを使って戦略の具現化を行うことが必要。治水・環境整備の科学的・技術的なサポートを学は進めるべき。

- ・庄内川の河川整備計画が年度内に策定される。その中で課題として流域治水の問題がある。上流が開発されていて下流部に直接流入し，洪水になる。堀川にも治水の問題がある。面的な議論，森，里山，川，海について必要。質の問題，名古屋港・伊勢湾について，庄内川の水質を改善。流域全体の水質の情報共有は河川管理者としてやっていきたい。

- ・整備・水質・まちづくり・市民との協働があるが，市は水質に特化。マイタウン・マイリバー整備は，黒川地区は完了，納屋橋，国際会議場のあたりを整備中。2010年までに終わるよう整備しているが，その後どうしたらいいのか？堀川再生には長期的な整備が必要。→熱があるのに冷めてしまう。

- ・河川整備計画で長くかかってしまう整備をもっと早くできないか？意見交換をする場があるとよい。

- ・市はヘドロ浚渫，ゴミキャッチャー，調整池の整備，下水処理水の改善など取り組んでいる。水質は基準でみれば良い状態，数値達成＝水がきれいというわけではないが。

- ・市は基準を上げることも検討している。が，手続きが大変。

- ・片づいたもの：思い当たらないが，個々の箇所で整備は行われている。

- ・片づいていないもの：堀川をどのような川にしたいのか？を考え，方向付けをする。2010年までにどうするか？民産官学がそれぞれの立場で取り組む。観光舟運を考えたとき，船から見た風景が同じではおもしろくない。観光スポットを作る。

- ・市民からは数値的な水質よりも臭いや目に見えるゴミが問題。堀川＝臭いという声がある。

- ・市民団体は個性があり，なかなかまとまらないが，ネットワークづくりが必要。

- ・ウッドデッキを民間に貸すことになったが，市民にとってシンボリックな場所だから，市民活動に役立つ公共スペースとして残してほしい。

- ・運河の魅力再発見プロジェクトの中の一つに中川運河と堀川が認定された。
- ・官の上層部もこのような場に出てほしい。

・行政と話のできる組織が行政の中にきちっとあると良い。堀川担当の主幹がいるといい。クリーン堀川をはじめとして様々な団体が設立されてきた。堀川再生の機運は高まっている。

・一方で、市民全体からしたらほんのわずかな数になってしまう。若い人は堀川の内容を知らない人もいる。堀川がどれだけ大切か？名古屋市民に対してPRする必要がある。草の根活動で行ったらどうか。沿川企業の人に情報発信し、目を向けて貰う。

・まだなこと：実現されていない提言・提案が多い。財政面の問題がある。行政に頼る部分が多い。堀川を整備しようとするの大規模になる→1000人基金などを募って活動を広げていきたい。

・「連携」ここは一緒にやれるという緩やかな部分で始めていければ。

・ぶれない機軸となる目標が足りない。たくさんの人の思いが満足される場が必要。

・まだ：水環境、誰が？水環境はゴミの問題が大きい。市民が達成感を感じられる改善であるべき。達成感→モチベーションを上げる。教育の場として堀川を利用するのは大切。子から親へ、気持ちを広げていく。企業の面からは社会貢献の場である。活動の場があれば達成する企業はたくさんあると思う。それに対して認定制度があれば活動する者が動きやすくなる。社員→家庭への広がり。

・昔は泡が出たり、筏が浮かんでいるイメージだった。子供の頃と比べてきれいになっている。堀川をもっときれいにしたい、もっと良くしたいという思いはある。個々の計画の中では目標があるが全体的な目標、当面の計画がない。

・共有化が必要か？必要じゃないか？という議論がまず必要。効率的に活動し、達成状況をモニタリングするのなら共有が必要。→堀川連合

・堀川にどれだけの市民が関心を持っているか？広報なごやに連載で堀川の情報を発信したら効果的では？市民が活躍できる場についてもそのようなところで発信してほしい。行政は、雨水ポンプ所に不思議なことに大きいゴミも沢山あるという実情なども市民に伝えるべき。

・流域委員会は場として活かされるか？

→河川の整備に目的が限定されるのであまり期待できない。治水が主となる。流域委員会は河川法で縛られている。“流域”までは議論が広げられない。

・民の立場から。堀川の活動は2極化という話もあったように、知らない人がたくさんいる。流域に少しでも関わりのあるところから情報発信・取り組みを行っていくことが必要。1000人調査隊ではマスメディアを活かしている。情報が関心のない人たちに伝わるように。堀川に愛着を持って大切にしていける気持ちを持つためには過去や現状を知って貰う必要がある。川に近づきたい気持ちを持たせるにはやはりゴミや

臭いが問題．特に臭いがあると背を向けられる．納屋橋のような人が集まるところに植物を置くと人が集まるだろう．

- ・名古屋市民全体で堀川がどう扱われているか？市民にとっての川は堀川だけではないため差別化をしていく必要がある．産官学民が集まれる場を作り，市民共通の認識を作り出し，そのための戦略を作る．戦略の中で協働・連携が重要．

- ・5年間水質検査をやっているが個々の参加者の活動期間はそれぞれ1年．引き継ぐことに苦労している．市民の関心は薄いと感じる．ゴミが落ちて手も誰も拾わない．拾うのは沿岸のごく一部の人だけ．堀川浄化に地域の力をもっと使う体制を整える必要がある．水質を測定して思うのは，数値的な基準とは別の基準が必要ということ．違った見方が必要．

- ・堀川ギャラリーをもっとうまく利用できないか？集客力が無い．いい場所にありながらもったいない．

- ・片づいた面：一部の街の賑わいはできてきた．

- ・全体での整備はだめ．規模が小さい．実質的には何も片づいていないのでは？

- ・個々の団体と行政のコラボレーション．

- ・イベントを機能アップの機会に．

- ・思い切って誰もが変わったことを共有できるような新しい像をつくり，市民の目を向けさせるようなビジョン・方向性が必要．頭が大きすぎて足腰がない印象．誰がやるか？→お金で買い取って大きな再開発をする必要があるのでは．

- ・名古屋にはヒートアイランドの問題がある．風の道が無い．未利用エネルギーを活用できるようにするための川がない．

- ・水質は以前に比べて改善されたとのことだが，依然としてひどい印象．劇的に改善が進まない原因は何か？どうしたらいいか？水質に関する議論はされている．水をきれいにしたい想いは共通．

- ・まちづくりは色んな議論があるが統一性がない．納屋橋にイタリア村が欲しい．人が集まる形で再開発をするのが良いことなのか？も議論する必要がある．

- ・実行に移すための力の結集が必要．単発ではなく，大きな力に結集することが，ビジョンの統一と併せて必要．コラボレーションができる環境．

- ・ウォーターマジックフェスティバルの際，白鳥から納屋橋まで船で移動したが，護岸やゴミが汚い．川辺に近づける場所が少ない．地元の人が来てない．

- ・小中の授業で堀川に関する学習を取り入れるべき．

- ・護岸整備が必要．ヘドロを浚渫したいが護岸の問題でとれないところがある．→護岸をまず整備．

- ・夜のライトアップは，ゴミが見えず，良いと思う．臭いもあまりないのでは．

- ・ゴミ対策は，自然ゴミの問題と，家庭ゴミがある．
- ・護岸整備→ヘドロ除去→水質・臭い改善→人が集まる場づくり
- ・堀川ギャラリーの認識度が低い．市民と堀川の接点としてギャラリーの活用が必要．ボランティアリーダーを養成し入場者をサポートしては．
- ・小学校の課外授業で堀川をPRするのもボランティアリーダーを．
- ・環境デーでアンケートをとったところイベントの認知度は70％．ボランティアをやる意志は60％．導水の認知度は43％．環境の大切さを伝える場として堀川を．
- ・発表の場が堀川ギャラリーしかない．市民にアピールしたくても集まらない．1日10名．今は近辺の会社に宣伝をしている．堀川ギャラリーの展示は堀川に関するもの．広報に宣伝を載せて欲しい．
- ・技術の情報公開をするべき．技術的な話をもっとする必要がある．原因は絞り込まれており，それに対してどうするか？戸田市・芝川のようなプロジェクトをやってみよう．きれいな水が堀川に入らない仕組み．八田川の水質改善が必要ということも訴えていく必要がある．地下水を下水管に入れない仕組みを．
- ・エアレーションの効果を評価する必要がある．お金の使い方を見直す意味でも．
- ・新堀川・堀川の合流点に青潮，ヘドロのたまり場がある．
- ・まず浚渫し，シルト・粘土に分離して元にもどす．
- ・これらについてももう少し技術屋が真剣に考えるべき．
- ・目標は，河口にはアサリ，上流にはヤマトシジミ，というように決める．
- ・企業がどう関わるか？
- ・「科学は科学者のためではなく，技術は企業のためではなく，科学技術は人のため」
- ・納屋橋には黒船（注釈：納屋橋東地区市街地再開発）がきそう．
- ・堀川に政治家がないのが問題．
- ・浄化：堰を設けて，
- ・にぎわい：レンタル自転車，朝市，夜店，屋台，フェスティバル，イベント
- ・「堀川探検隊」を環境学習に使って欲しい．

○出された意見のまとめとして

- 1) 堀川再生に向けて皆が共有できる強力なビジョンをつくらないといけない．
- 2) 堀川のことを知らない人、無関心な人への対応を考える必要がある．
- 3) 議論だけでなく行動しないとけない段階にある．

○追加された意見

- ・市民に堀川を知って貰うにはイベントが必要．女性をターゲットに．ウッドデッキがないが4～5月のフラワーフェスティバルに行政も関わって欲しい．場所は堀川ギ

ャラリーの北か？ WMFも場所がなければできない。

- ・政治～全市民的な議論が必要と思われる。名古屋のマスタープラン，将来像に堀川をどう位置づけるか？堀川の位置づけについて合意形成し，市民に認知して貰うプロセスが必要なのではないか。関心のある者からさらに議論の場を広げる。
- ・学や技術に携わる産も含めて，技術屋集団で情報交換会をやったらどうか？堀川に限らず様々な河川に携わった人たちが意見交換をする場として。
- ・学は調査ばかりだった。調査で問題点はわかってきた。解決策の検討へ。
- ・堀川は川ではない，入江だ。堰を作ったらどうかという意見や，必要ないという意見もある。大学の連携といっても堀川に関心のある人が集まっただけ。
- ・実際可能な提案はあるのかどうか，実行に移せるものはあるのか，見つける必要がある。
- ・市民の関心をどうするか。“遊べる場所”が必要。立地的に人が集まらない。名駅と栄の中間で動線が無い。
- ・ビジョンの話には生き物についても含めるべき。
- ・ヘドロをとると護岸が崩れるか？試験施工をやることで評価してみてはどうか。
- ・連携の旗を誰が振るか？それぞれのリーダーシップがあるが連携することで総すくみになるおそれがある。議論が情報公開され，積み上げていく仕組みも必要。蓄積していくと報道してもらえるかもしれない。

以上

第4回：3月20日（祝・木）14：00～ 会場未定